

ヤナ漁獲アユの冷水病に対する 抗病性付与技術開発

吉岡 剛

◆背景・目的

ヤナで漁獲されるアユは、種苗性が高く、河川放流用種苗として最適とされているが、漁獲後直ちに放流すると冷水病を発症する場合が見られる。一方、冷水病に感染して生き残ったアユは冷水病に対する抗病性を獲得することが知られている。そこで、ヤナ漁獲アユに冷水病に対する抗病性を付与する方法を検討した。

◆成果の内容・特徴

- ・平成18年5月3日にヤナで漁獲されたアユ(平均体重4.0g)を除菌区(漁獲直後に加温処理:23℃3日間のち28℃3日間)、30%斃死区(冷水病が自然発生して斃死が約30%に達した時点で加温処理)の2通りの方法で飼育した。
- ・平成18年6月15日にヤナで漁獲されたアユを除菌区、10%斃死区、20%斃死区、30%斃死区の4通りの方法で飼育した。
- ・同ロットを冷水病対策(加温処理)を行わず飼育した場合の歩留まりは5月3日が16.5%、6月15日が15.0%であった。
- ・各区と対照区(水産試験場で飼育した冷水病を経験していないアユ)に冷水病菌により攻撃を行ったところ、各区とも対照区より高い生残率を示し、斃死させる割合が増えるほど、生残率も高くなった。
- ・各区とも試験終了時に冷水病菌保菌検査を行ったが全て陰性であった。

◆成果の活用・留意点

ヤナ種苗漁獲後、冷水病が自然発生して、斃死が一定量に達した時点で加温処理を行うと、冷水病に対する抗病性が付与されることが明らかとなった。今後は、抗病性が付与できる最小の斃死量を検討する必要がある。

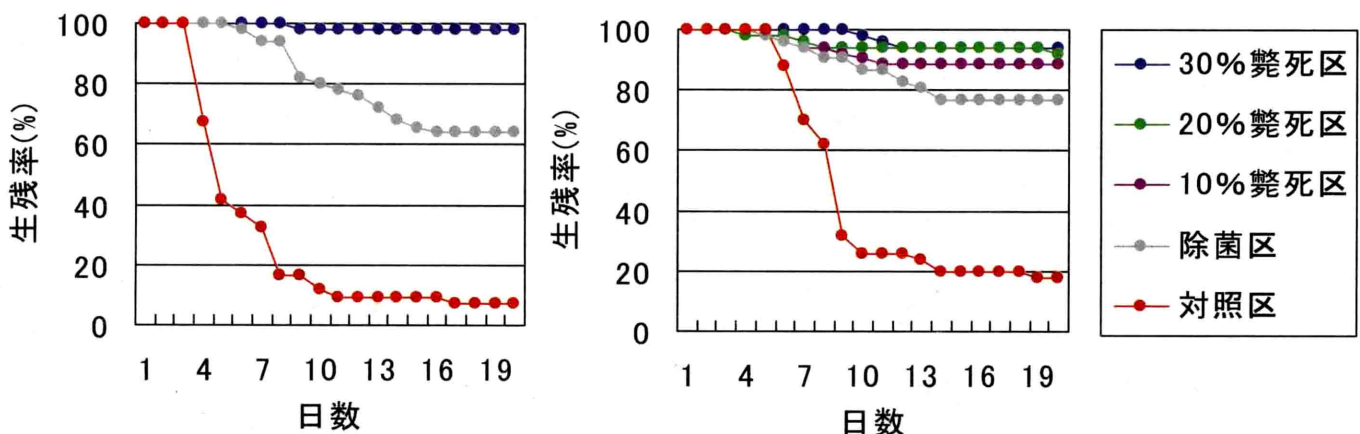


図1. 攻撃後の生残率(5月3日)

図2. 攻撃後の生残率(6月15日)